

新産地報告 (7)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (7)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

長野県産の種子植物について、新たに発見されたもの、または分布上興味深いものについて、先の報告(上野・上野 2011)に引き続いて報告する。

キリシマミズキ

Corylopsis glabrescens 写真 1

・泰阜村万古溪谷 400 m 2011 年 7 月 13 日
NAC161914

4 月上旬に溪流沿いを歩いているとき、ミズキ類が 1 本のみで咲いているのを見つけた。コウヤミズキかと思われたが、花弁がやや開き気味で、雄ずいが黄色く、花弁よりも明らかに短いため、キリシマミズキの可能性があった。また、レッドデータあいち(愛知県 2009)には、コウヤミズキとキリシマミズキの中間型のダンドミズキが愛知県と長野県の県境付近に分布すると記載されており、その特徴は雄ずいが黄色で短い一方、葉身が 6~10cm とコウヤミズキに近いとされる。同年 7 月に現地に再来して葉を確認したところ、葉身長が 3~6cm とコウヤミズキよりも明らかに短いことから、花の特徴と併せてキリシマミズキとした。県内では木曽谷から天竜村にかけて分布するが、泰阜村での記録はなかった(森本 1994、長野県 2002)。



写真 1 キリシマミズキ 泰阜村万古溪谷
2011 年 4 月 10 日

トウゴクサバノオ

Dichocarpum trachyspermum 写真 2

・根羽村万場瀬 600 m 2011 年 5 月 5 日
NAC161929

細い溪流に沿って歩いているとき、トウゴクサバノオがあちこちに咲き始めているのを見つけた。溪流沿いに分布しており、個体数は比較的多い。長野県に産するシロガネソウ属は、サバノオ、アズマシロカネソウ、ツルシロカネソウ、トウゴクサバノオの 4 種があり、そのうちアズマシロカネソウ以外の 3 種が県南部に生育し、トウゴクサバノオは近くでは天竜村、泰阜村で記録がある(長野県 2002)。

キクザキイチゲ

Anemone pseudoaltasia

・根羽村万場瀬 600 m 2011 年 4 月 9 日
NAC161930

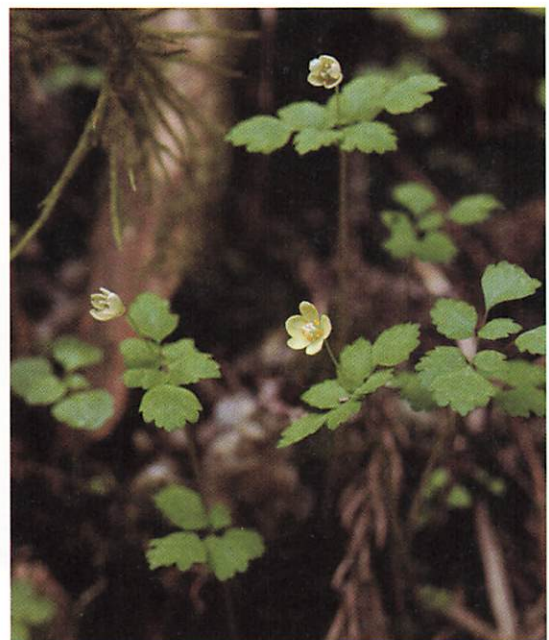


写真 2 トウゴクサバノオ 根羽村万場瀬
2011 年 5 月 5 日



写真3 ミツバコンロンソウ 根羽村万場瀬
2011年5月5日

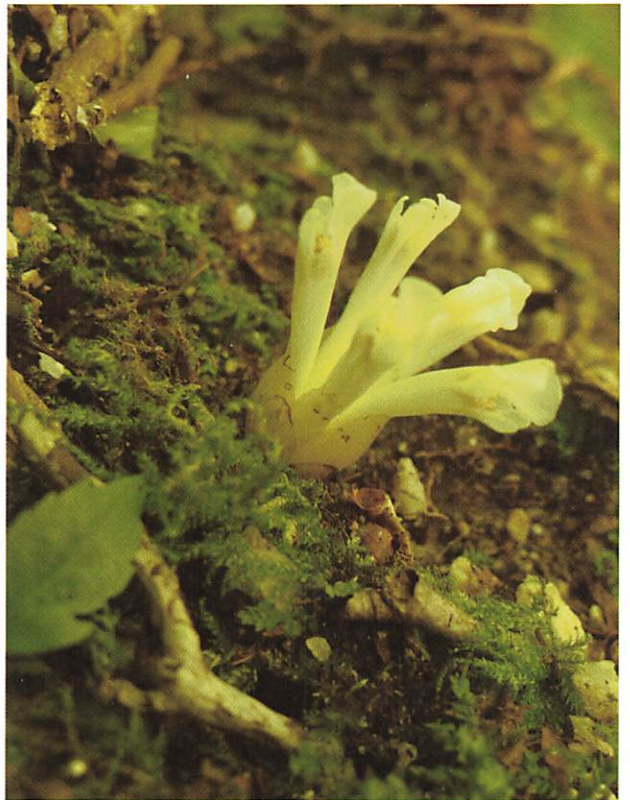


写真4 キヨスミウツボ 大桑村田光
2011年7月2日



写真5 イナヒロハテンナンショウ 塩尻市洗馬
2011年5月15日



写真6 カミコウチテンナンショウ 穂高町有明
2011年6月19日

やや岩の多い落葉広葉樹林下の急斜面のごく狭い範囲に、キクザキイチゲがわずかに生育しているのを見つけた。曇りでやや暗かったため、花は開いていなかった。がく片は白色であった。アズマイチゲやキクザキイチゲは県中北部には比較的多く見られるが、県南部では天竜村で記録があるのみで（長野県 2005）、その他、林芳人氏より泰阜村でも見たと情報をいただいた（私信）。

ミツバコンロンソウ

Cardamine anemonoides 写真 3

・根羽村万場瀬 600 m 2011 年 5 月 5 日
NAC161934

上記、トウゴクサバノオと同じ溪流沿いにミツバコンロンソウも混成するように咲いていた。トウゴクサバノオと同様に溪流沿いに見られるが、個体数はより少なく感じた。小型の植物で、葉は 3 出葉となり、数個の白い花を付ける。暖地性の植物で、県内では旧山口村と 1930 年ころに豊丘村でのみ記録があった（長野県 2005）。

エゾエンゴサク（ケシ科）

Corydalis ambigua

・木曽町木曽福島中沢川 5 月 7 日 NAC191631

溪流脇に、苞が全縁のエゾエンゴサクの小群落がヤマエンゴサクと混成しており、やや中間的な個体も見られた。2010 年にすぐ近くの木曽町釜沢でも見つけており、木曽谷にエゾエンゴサクが分布することが明らかとなった。分布上の南限と思われる（上野・上野 2011）。

トヨボタニソバ（タデ科）

Persicaria geocarpica

・売木村南部二 960 m 2011 年 9 月 10 日
NAC161933

売木村の私有地の山地において、湿ったスギ林下にトヨボタニソバが群落を作っているのを見つけた。似た種のミヤマタニソバとも混成していた。トヨボタニソバは近年、ミヤマタニソバとは別の種であることが認識された新種で（須山・植田 2006）、長野県、愛知県、岐阜県の県境付近に局所的に分布しており、県内では天竜村、根羽村、平谷村に続いて、今回売木村でも見つかったことから、ほぼ南部の県境付近全域で見つかったことになる（上野・上野 2009）。

キヨスミウツボ

Phacellanthus tubiflorus 写真 4

・大桑村田光 750 m 2011 年 7 月 2 日
NAC161912

林道脇の斜面に 3 株ほどが、白い花を咲かせているのを見つけた。本種は葉の無い寄生植物で、筒状の花をまとまって咲かせる。アジサイ類の根に寄生するとされ、近くにはコアジサイがあったが、それに寄生しているかどうかはわからなかった。全国に分布し、県内でも全県で記録がある（清水 1997）。

イナヒロハテンナンショウ

Arisaema inaense 写真 5

・塩尻市洗馬 1200 m 2011 年 5 月 15 日
NAC161928

・朝日村小野沢 1200 m 2011 年 6 月 4 日
NAC161932

イナヒロハテンナンショウは、1 枚の葉は 5～7 枚の小葉に分裂し、葉軸は発達せず、花よりも上につく。また、筒部の白い筋は盛り上がることなどヒロハテンナンショウに良く似ているが、舷部が筒部の口辺から離れて持ち上がり、付属体が太い棒状など、明瞭に異なる点もあり、別種とされた（邑田 2011）。本種は日本固有の植物で（加藤・海老原 2011）岐阜県と長野県に産し、県内では北アルプスの麓の穂高町、および中央アルプス麓の駒ヶ根市、飯島町での記録があり、産地が離れていたが、今回塩尻市と朝日村の 2 か所で見つかったことから、産地をつなぐ分布として注目される。

塩尻市の産地は溪流沿いに点々と生育しているものの、花を付けている個体が非常に少なく、葉だけでは区別の困難なヒロハテンナンショウも生育していることから、どのくらいの個体数があるのかよくわからなかった。小さい株が溪流沿いに広く生育している状況から、以前は多く生育していたものが、近年の豪雨による川の氾濫で自生地がダメージを受けたものと想像された。一方の朝日村では、ごく限られた場所で栄養状態の良い個体が急斜面に密生して生育していたが、ヒロハテンナンショウを見ることは無かった。イナヒロハテンナンショウは近年認識された種で、ヒロハテンナンショウと良く似ていることから混同されてきた可能性があり、今後他の場所でも見つかることが期待される。

カミコウチテンナンショウ

Arisaema ishizuchiense var. *brevicollum* 写真 6

・穂高町有明 1200 m 2011 年 6 月 19 日
NAC161915

林道沿いのやや岩の多い湿った場所に、カミコウチテンナンショウが点々と生育していた。生育状態は良いものの、個体数は 10 株程度と少ないように感じた。カミコウチテンナンショウは、葉は 1 枚で小葉が 5 枚、葉軸は発達しないことなど、ヒロハテンナンショウにやや似ているが、花柄が少し長めにつき、付属体が棍棒状となる。舷部の表面の色に独特の緑色が混じり、区別は容易である。本種は長野県、岐阜県、富山県、福井県に生育する日本固有の植物である（加藤・海老原 2011）。県内では北アルプスおよび大桑村、南木曽町に分布している（長野県 2002、北沢 2011）。

ヒトツバテンナンショウ

Arisaema monophyllum

・朝日村檜俣沢 1100 m 2011 年 5 月 28 日
NAC161916

溪流脇の林道沿いに点々と見られ、個体数は比較的多い。近くでは美ヶ原、安曇野市、木曽町でも見られた（上野・上野 2011）。本種も日本固有の植物で日本中部以北に分布する（加藤・海老原 2011）。葉は 1 枚で葉軸は発達し、付属体は細い棒状で、前に曲がったようになる。仏炎苞の内側に紫色の模様があるので、容易に区別できる。

ツチアケビ（ラン科）

Cyrtosia septentrionalis

・泰阜村万古溪谷 450 m 2011 年 7 月 13 日

ツチアケビが林道沿いのやや日当たりのよい場所に花を咲かせていた。ツチアケビは県内では、南部を中心に分布しており、近くでは根羽村と上松町で観察した（上野・上野 2007）。

コケイラン

Oreorchis patens

・塩尻市権兵衛峠 1250 m 2011 年 6 月 26 日

塩尻市では過去にも数か所で見ているが、今回の場所は旧榑川村になるため新産地として報告する。溪流脇の急斜面にまとまって生育していた（上野・上野 2011）。

謝辞

本報告の作成にあたり、貴重な情報と助言をいただきました長野県環境保全研究所&ハーバリウム（NAC）の大塚孝一氏ならびに駒ヶ根市の林芳人氏には、心より感謝いたします。

引用文献

- 愛知県環境部自然環境課（2009）レッドデータあいち 2009 植物編。
上野勝典・上野由貴枝（2007）新産地報告（4）。長野県植物研究会誌 40：233-236。
上野勝典・上野由貴枝（2009）長野県における新種トヨボタニソバについて。長野県植物研究会誌 42：39-42。
上野勝典・上野由貴枝（2011）新産地報告（6）。長野県植物研究会誌 44：33-36。
加藤雅啓、海老原淳編集（2011）日本の固有植物。東海大学出版会。
北沢あき子（2011）ハナノキ湿地周辺の絶滅危惧植物の発見・3。長野県植物研究会誌 44：31-32。
清水建美監修（1997）長野県植物誌。信濃毎日新聞社。
須山知香・植田邦彦（2006）ミヤマタニソバ（タデ科）近縁の新種トヨボタニソバ。日本植物学会第 70 回大会 講演要旨集 184。
長野県（2002）長野県版レッドデータブック。維管束植物編。
長野県植物誌資料集作成委員会（2005）CD-ROM 長野県植物誌資料集（普及版）。
邑田仁（2011）日本のテンナンショウ。北隆館。
森本範正（1994）木曾川流域におけるキリシマミズキとコウヤミズキの混成集団。Acta Phytotax. Geobot. 45: 65-69。